

2009年11月15日（講道館杯2日目）

牛窪 多喜男 先生



ルネッサンススピーチ

皆さん、こんにちは！

ただいご紹介にあずかりました、牛窪多喜男でございます。伝統ある講道館杯で、スピーチといふ栄誉をいただきまことにありがとうございます。暫くの間、ご静聴の程を、宜しくお願い申し上げます。

さて、決勝戦に残られた皆さん、気力溢れる試合を期待しております。

そして、その場まで登りつめる事が出来なかった皆さん、「未来は、やり直しやり直しのできる過去」とも言えます。ぜひ、明日から練習を始め来年の講道館杯を目指し、奮闘して下さる事を期待しております。

私は現在視力を失っております。しかし、この柔道で養った「気力、持続力、免疫力」これを「体力」と言いますが、これによって、私は生かされていると思います。明るい未来あるこれからという皆さんの活躍で、日本柔道がますます栄えることを期待しております。

「心、技、体」という言葉がありますが、私たち身体に障害を持つ者は「体、技、心」と思っております。これ以上、身体を傷つけることの無いように、そうして家族や周りの人と幸せに暮らしていくために、これからも柔道によって、体力を身に付けていきたいと思っております。

「年老いる」ということは、「歳を重ねる」ことではございません。夢や希望を失ってしまえば、それが老いるということでございます。

私は足下の10円玉を拾う事のできない身ではありますが、夢や希望は沢山もっております。

これからの若い人達に、ぜひ今後の日本を担っていただき、オリンピックでの活躍、そして日本柔道を、ますます盛んにしていただきたいと思っております。

今月29日に私達視力障害者の大会も講道館で行われることになっております。

小さな大会ではありますが、それぞれの人が、それぞれの障害を抱え、家族を抱え、

「柔道という素晴らしい競技に親しめるということ」だけでも幸せに思っております。

それぞれの人たちが、それぞれ柔道を楽しめ、そしてその気力によって生きることができる素晴らしい柔道を味わえたことに感謝しております。

そして、今後の皆様のご健闘を期待いたしまして、私からのスピーチとさせていただきます。ご静聴誠にありがとうございました。